



たかさご未来資産を貯めようプロジェクト

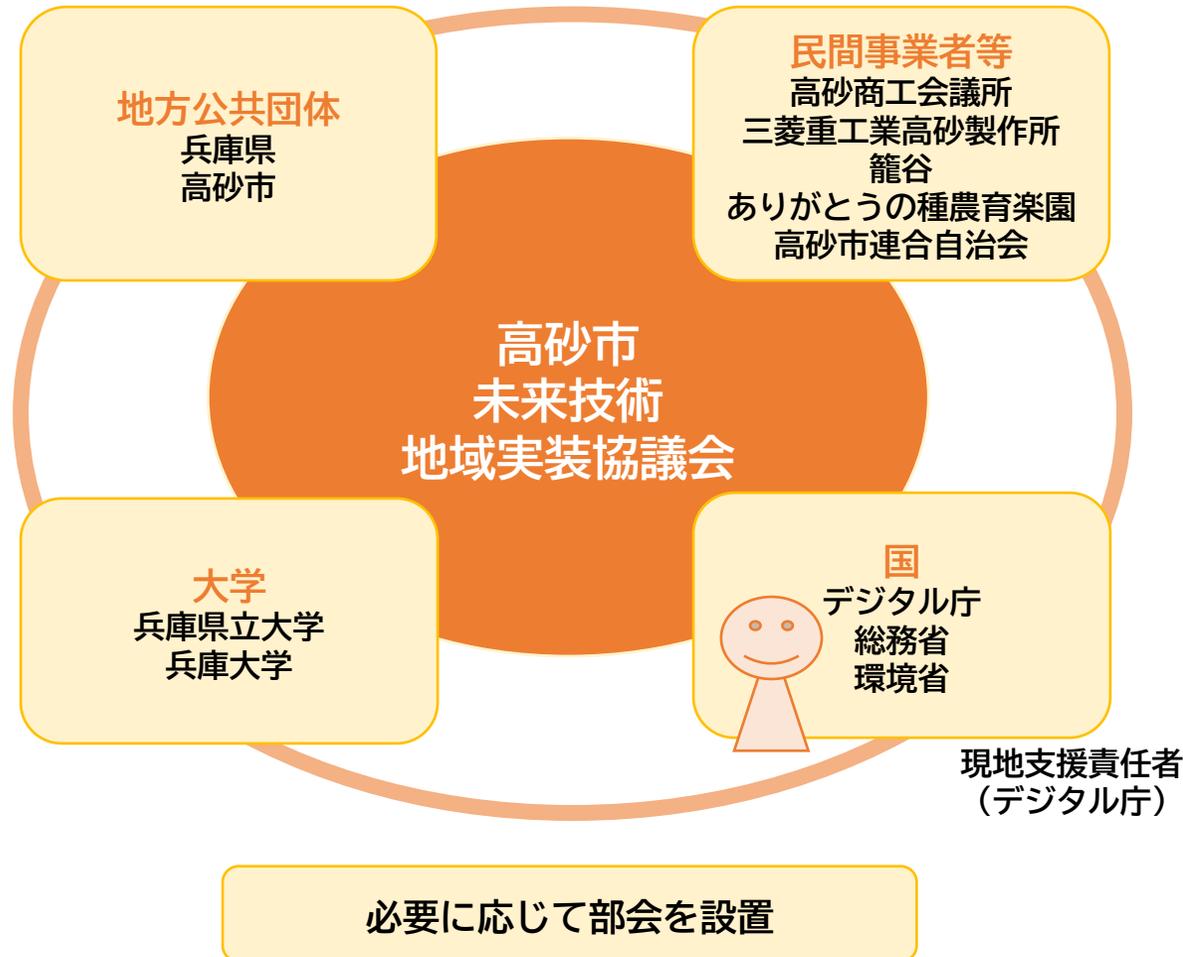
高砂市未来技術地域実装協議会参考資料

令和6(2024)年1月29日 高砂市

目次

たかさご未来資産を貯めようプロジェクトのイメージ	・・・・・・・・ 1
たかさご未来資産を貯めようプロジェクト（地域 検討・推進体制）	・・・・・・・・ 2
たかさご未来資産を貯めようプロジェクト（庁内 検討・推進体制）	・・・・・・・・ 3
第1回高砂市未来技術地域実装協議会	・・・・・・・・ 4
第2回高砂市未来技術地域実装協議会	・・・・・・・・ 5
未来技術社会実装事業概要説明会	・・・・・・・・ 6
高砂市議会全員協議会	・・・・・・・・ 7
たかさご未来資産を貯めようプロジェクト 全体ロードマップ	・・・・・・・・ 8

高砂市未来技術地域実装協議会



高砂市未来技術地域実装協議会設置要綱
令和4(2022)年11月25日 策定

【目的】

「たかさご未来資産を貯めようプロジェクト」を実施するにあたり必要な検討、調整を行う。

【協議事項】

- (1)社会実証・実装に向けた検討・協議
- (2)社会実証・実装の実施、実施結果に関する評価・検証
- (3)事業化に向けた施策の検討
- (4)その他目的達成に必要な事項

【本協議会の位置づけ】

附属機関に類する機関として、規約の定めるところにより、国、県、学識経験者、民間事業者等の意見を広く求め、本プロジェクトに反映させることを目的として設置する懇談会等の会合とする。

委員についてはスモールスタートで開始し、協議が進む中、さらに関係する団体等の参加を要請する。また、必要に応じて、部会等、詳細協議を行う場も設ける。

たかさご未来資産を貯めようプロジェクト（庁内 検討・推進体制）

未来技術社会実装事業推進本部

本部長 : 市長
 副本部長 : 副市長
 本部長 : 理事、政策部長、総務部長、財務部長、市民部長、
 健康こども部長、福祉部長、生活環境部長、都市創造部長、
 上下水道部長、教育部長
 事務局 : 企画課

専門部会

部会長 : 経営企画室主幹
 副部会長 : 環境政策課主幹
 部会員 : シティプロモーション室主幹、人事課長、契約管財課長、
 文化スポーツ課長、地域福祉課長、産業振興課長、
 土木総務課長、経営総務室主幹、学校教育課長
 事務局 : 企画課

ワーキンググループ

座長 : 経営企画室主幹
 副座長 : 環境政策課主幹
 委員 : ICT推進課、シティプロモーション室、人事課、
 契約管財課、地域振興課、文化スポーツ課、地域福祉課、
 環境政策課、産業振興課、土木総務課、経営総務室、
 学校給食課
 事務局 : 企画課

高砂市未来技術社会実装事業推進本部設置要綱
 令和4(2022)年9月1日 策定
 令和5(2023)年5月24日改正

高砂市未来技術社会実装事業推進本部専門部会設置要綱
 令和5(2023)年5月24日策定
 令和5(2023)年9月5日 改正

【目的】

市の課題の解決と市民等の心豊かな暮らし及び住みやすいまちづくりの更なる向上並びに未来技術を活用した新しい地方創生の実現を図る。

【所掌事項】

- ・未来技術社会実装事業に関すること
- ・その他

第1回高砂市未来技術地域実装協議会(令和4(2022)年11月25日開催)

第1回高砂市未来技術地域実装協議会

議事：たかさご未来資産を貯めようプロジェクトの概要について 他

日時：令和4(2022)年11月25日(金) 13時から14時40分まで

場所：高砂市文化保健センター2階多目的室1

出席委員：13名 オブザーバー：内閣府地方創生推進事務局

主な意見の概要【市民に分かりやすい制度づくりの視点】

- ・ 自助、共助を進める視点でカーボンニュートラルの関わりの説明が不十分
(市民の役割、市の役割がかわる)
- ・ Well-beingの対象が不明確
- ・ 制度のイメージがわかりにくい
- ・ 身近な問題意識への解決を示せるものを
(志を高くした活用も検討すべき)
- ・ カーボンニュートラルは企業側も大きな問題、連携のトピックになる
- ・ 何を指すのかがわかりにくい、脱炭素、地域ポイントの目標も見えない
- ・ ポイント制度自体の魅力づくりが必要
- ・ デジタルが目的とならないよう、市民の思いに沿っていることを考えながら進めること
(市民を中心とした仕掛け、仕組み、外から来る人も)



主な意見の概要【デジタル技術の活用の視点】

- ・ 技術的視点(WEB3.0)も今後検討が必要
- ・ 人口減少をデジタル化、行動変容をデジタル化の関わりの説明(デジタルの有効性、意見を市民にわかってもらう)→今、ないものにデジタルを使う
- ・ 今つながっていないところをつなぐことにデジタルを使う
- ・ データ連携基盤の活用方策(職員がどう活用するか)
- ・ コミュニティも居住地域だけではなく社会的、経済的コミュニティなどの新しいつながりをデジタルの視点で

第2回高砂市未来技術地域実装協議会(令和5(2023)年2月9日開催)

第2回高砂市未来技術地域実装協議会

議事：令和4年度の取組について(第1回協議会後の取組) 他

日時：令和5(2023)年2月9日(金) 10時から11時30分まで

場所：高砂市役所南庁舎 5階大会議室

出席委員：12名 オブザーバー：内閣府地方創生推進事務局

主な意見の概要【脱炭素×DXの視点】

- ・CO2の市内製造業等が排出する割合が全国平均2倍であることは高砂の特徴であり、課題である。
- ・高砂ならではのコミュニティをどう、デジタルの力を使って維持・充実していくか。
- ・脱炭素行動に地域住民をいかに巻き込むか、長く定着するようなエコシステムが必要
- ・脱炭素に取り組む課題解決型コミュニティをどう作るか



全体スケジュールの見直しにあたっての考え方

市民にどれだけ参加してもらうかは重要
市民参加を増やすことは課題
最適なサービス(データ連携基盤やデジタル地域ポイントプラットフォーム)の整理が必要

↓ 考え方の再整理

市民にわかりやすい脱炭素行動可視化サービスの
実証実験を先行実施し、市民参加を促す

↓ 実証実験の実施

市民、事業者、行政、それぞれの
意識醸成が必要

↓ 説明会・勉強会

考え方の再整理や実証実験、説明会等の実施検討を深化させるために高砂市未来技術地域実装協議会に部会を設置する
毎年5～11月の間で5回実施
毎回ゲストを招き、勉強会形式で実施
部会での検討内容を協議会に諮り、事業に反映

未来技術社会実装事業概要説明会(令和5(2023)年5月26日開催)

未来技術社会実装事業概要説明会 (令和5年度ゼロカーボン推進に関する事業概要説明会)

「たかさご未来資産を貯めようプロジェクト」の全体像、高砂市提案型実証事業の採択事業の説明と合わせて、高砂市地球温暖化対策地域協議会会長（高砂市未来技術地域実装協議会委員）である兵庫県立大学環境人間学部土川忠浩教授にご講演いただいた。

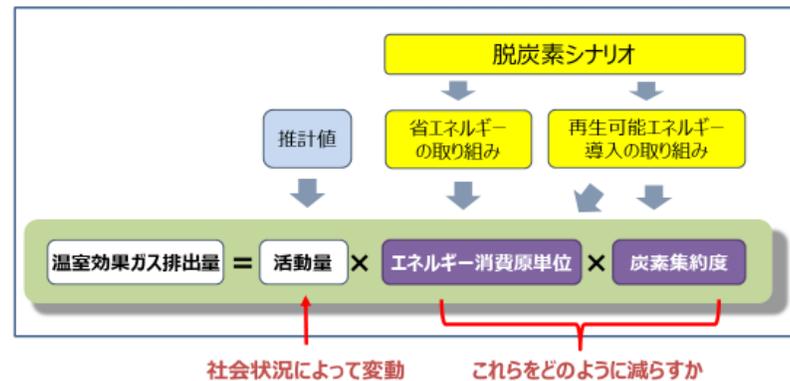
日 時：令和5(2023) 5月26日（金）13時30分から15時00分まで
場 所：高砂市役所南庁舎5階大会議室
参加者：約50名(全課対象(課長級))

講演テーマ：「地球温暖化対策実行計画の考え方と未来技術社会実装事業への期待」



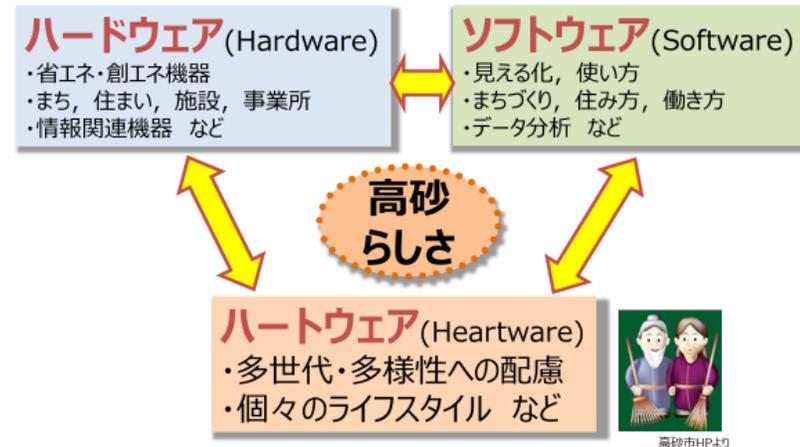
地球温暖化対策実行計画の理解のために

図 4-8 将来排出量の推計式（脱炭素シナリオ）



先述の「環境効率」などとは異なる式で表現されているが、ハード、ソフトの両面からの対応は必要。

高砂市未来技術社会実装事業への期待



高砂市議会全員協議会(令和5(2023)年6月19日開催)

高砂市議会全員協議会

議事：未来技術社会実装事業について

日時：令和5(2023)年6月19日(金)

場所：高砂市役所分庁舎2階議場

出席議員：19名

主な意見の概要

○今回の公募はDXについてだが、Well-Beingとして、デジタルで地域の困りごとのマッチング等の実証実験の公募は来年度行うのか。

→コミュニティをよくする活動については、来年度以降に取り入れていく予定だが、実証実験を行うか否かも含めて、今回の実証事業を見ながら検討する。

○実証としてどのくらいの人に届けるのか。また、たかさごナビの利用者数やそれを踏まえた連携はどのように考えているか。

→実証事業の範囲については事業者と検討中である。たかさごナビはダウンロード数が約2万件、将来的には連携も視野に考えているが、実証事業では連携しない予定。

○Liqlidは、ためまっぷやSPOBYに対する意見聴取ツールとしてのみに使うのか。もっと広く使ってはどうか。特に、市民病院については、まさに市民の意見を聞くタイミングであり、従来の意見聴取と並行して使うことでより効果的な意見聴取ができるのではないか。

→Liqlidについては、ベースとしては二つの実証事業の意見聴取に使う。アンケート機能もあるため、実証事業でどの範囲使えるかは事業者と調整する。

○便利なものを使って人々の生活が良くなり、脱炭素にもつながる。運用には費用が掛かるが、従来のものが代替され、本来かかったである費用等、経済的な効果についても検証が必要だと思うがどのように考えているか。

→費用の代替による効果と併せて、市民の方の気持ちの部分についても検証したい。どのような形で評価するかは今後検討が必要。

高砂市未来技術地域実装協議会部会
毎年5～11月の間で5回実施



議会からの意見や実証事業の状況等を考慮しながら、必要に応じて部会を開催することとする

たかさご未来資産を貯めようプロジェクト 全体ロードマップ

初年度はサービス実証を中心に行う。PDCAサイクルにより、効果を検証し、取組内容を改善する。

